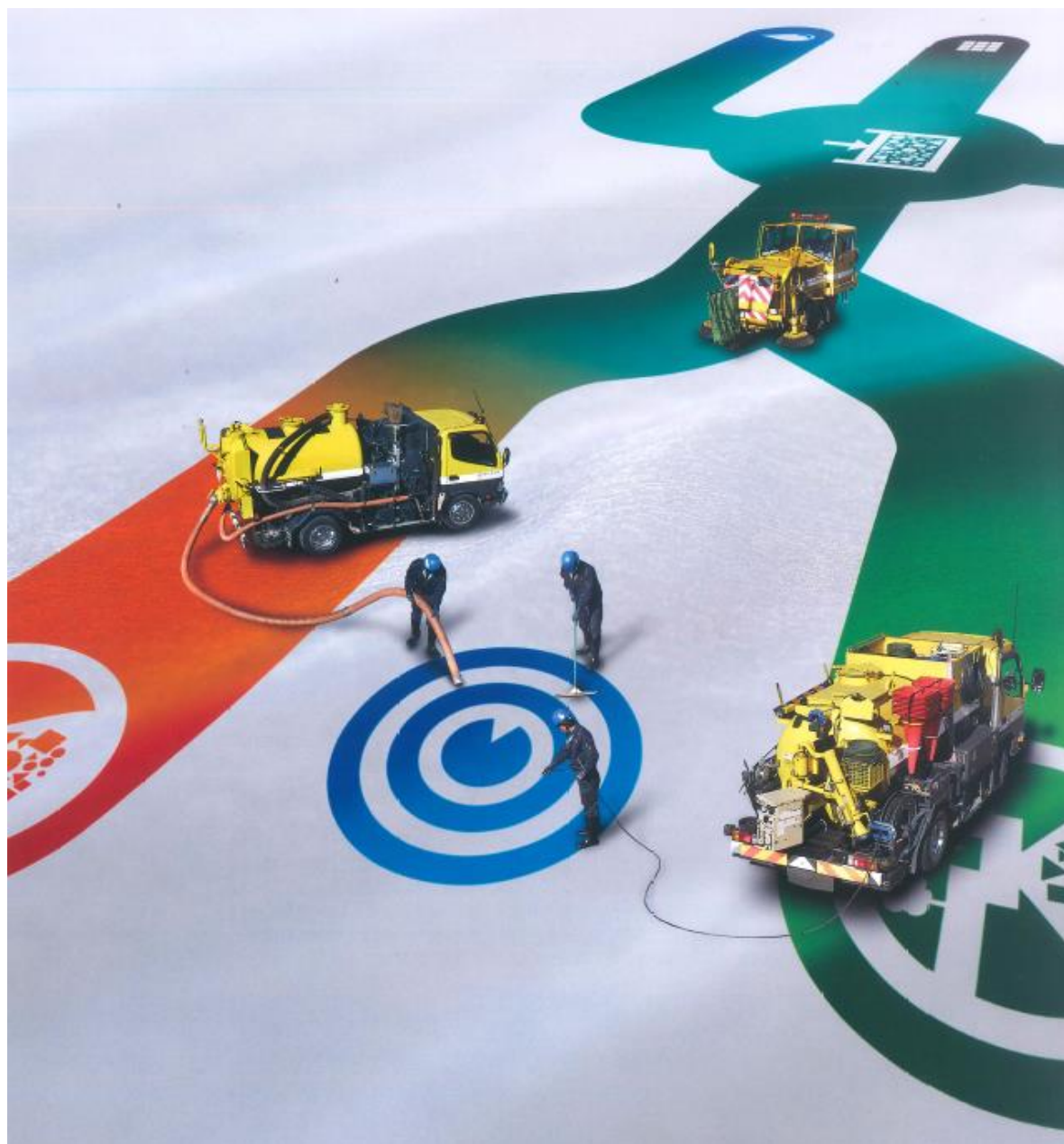


環境経営レポート

2021

(運用期間：2021年8月～2022年7月)



発行日 2022年10月1日

SWEEPING SERVICE
株式会社 スイーピングサービス

目次

1. 会社の概要
2. 事業内容
3. 環境経営方針
4. 環境経営目標
5. 環境経営計画
6. 環境経営計画の取組結果とその評価
7. 環境関連法規等の違反、訴訟等の有無
8. 代表者による全体評価と見直しの結果
9. 施設等の状況
 - (1) 収集運搬車両の状況
 - (2) 積替え保管施設の面積と保管上限量
 - (3) 処理施設の種類等
 - (4) 処理工程図
 - (5) 処理実績(受託した産業廃棄物の処理量)
10. 環境活動への取組み

1. 会社の概要

【会社名】 株式会社スリーピングサービス

【代表者】 代表取締役 田邊 昌志

【設立】 1973年(昭和48年)7月20日

【資本金】 3,000万円

【売上高】 617,650千円(2022年7月期)

【従業員数】 46名

【事業所、敷地面積】

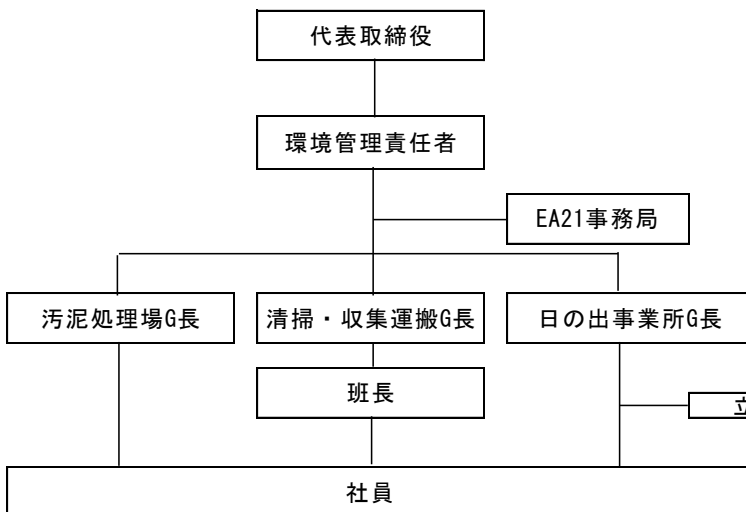
- (a) 本社 東京都あきる野市瀬戸岡360番地1
298㎡ TEL. 042-597-6112
- (b) 日の出事業所 東京都西多摩郡日の出町平井15番地10
801㎡ TEL. 042-597-6111
- (c) 立川支店 東京都立川市曙町2丁目2番22号プラウドタワー立川1701号
55㎡ TEL. 042-527-2066
- (d) 汚泥処理施設 東京都西多摩郡日の出町平井26番地1
3,842㎡ TEL. 042-597-6112

【エコアクション2.1対象事業所】
全社

【環境管理責任者及び事務局】

環境管理責任者 取締役 田平 大悟
事務局 田平 大悟 湯本 万倫子
TEL. 042-597-6111 FAX. 042-597-6115

【組織図】



<代表者>

- ・環境経営方針を定める
- ・環境管理責任者を指名
- ・資源(人材・資金・技術)の用意
- ・環境経営システム等の見直し
- ・経営における課題とチャンスの明確化

<環境管理責任者>

- ・環境経営システムの総責任者
- ・環境経営目標の設定と決定
- ・システムの実績を代表者に報告

<EA21事務局>

- ・全体計画の立案
- ・文書の作成・管理
- ・教育の実施
- ・システム運用上の事務管理
- ・外部情報の受付窓口

<G長>

- ・部門の活動計画立案(PDCA)
- ・実施状況の確認・報告

<班長>

- ・活動計画の実施とまとめ

<従業員>

- ・環境経営方針の理解と環境への取組みの重要性を自覚
- ・自主的、積極的な環境改善への取組み

2. 事業内容

- 【事業内容】 (1) 廃棄物処理業務
 産業廃棄物の収集・運搬（積替え保管含む）、中間処理（汚泥）
 一般廃棄物の収集・運搬
- (2) 清掃・維持管理業務
 道路公園、建物、路面、貯水槽、浄化槽、管渠、厨房、
 グリストラップ清掃、下水道管漏水・TVカメラ調査、
 処理施設の保守管理

【優良性基準適合認定】

認定の区分	産廃エキスパート	
業の区分	収集運搬業（積替え保管含む）	中間処理業
認定番号	4-21-B0085	4-21-C0080
有効期間	2022年4月1日～2025年3月31日	

【許可の内容】

<産業廃棄物収集運搬業>					許可品目											
No	優良認定	都道府県・政令市	許可番号	許可年月日	有効期限	燃え殻	汚泥	廃油	廃プラ	紙くず	木くず	繊維くず	金属くず	ガラス・コンクリート・陶磁器くず	鉢さい	がれき類
1	優	東京都	13-10-005352	平成31年2月1日	令和8年1月31日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2	優	神奈川県	01400005352	令和4年9月22日	令和11年8月21日		●	●	●	●	●	●	●	●		●
3	優	埼玉県	01101005352	令和1年10月8日	令和8年8月27日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
4		千葉県	01200005352	平成30年1月4日	平成34年11月20日		●	●	●	●	●	●	●	●		●
5		山梨県	01900005352	平成30年10月23日	平成35年10月22日		●		●	●	●	●	●	●		●
6		栃木県	00900005352	令和2年5月29日	令和7年5月28日		●	●	●	●	●	●	●	●		●
7		群馬県	01000005352	令和2年6月8日	令和7年6月7日		●	●	●	●	●	●	●	●		●
8		福島県	00707005352	令和2年6月12日	令和7年6月11日		●	●	●	●	●	●	●	●		●
9		茨城県	00801005352	令和2年7月21日	令和7年7月20日		●	●	●	●	●	●	●	●		●
<産業廃棄物処分業>																
10	優	東京都	13-20-005352	令和3年7月23日	令和10年7月22日	●										
<一般廃棄物収集運搬業>					許可品目											
11		福生市	第311号	令和4年4月1日	令和6年3月31日	事業系一般廃棄物										
12		瑞穂町	瑞生許可第12-3号	令和4年9月20日	令和6年9月19日	紙くず・木くず・浄化槽汚泥										
13		青梅市	許可収・運第68号	令和4年10月1日	令和6年9月30日	事業系一般廃棄物（紙くず・木くず）										
14		檜原村	4許可第1号	令和4年4月1日	令和6年3月31日	道路の清掃により発生する廃棄物										
15		羽村市	許可一廃収第31号	令和4年9月26日	令和6年9月25日	事業系一般廃棄物（紙くず・木くず）										
16		日の出町	3日生第13437号	令和4年4月1日	令和6年3月31日	浄化槽汚泥、道路・公園及び河川の清掃により発生する廃棄物										
17		あきる野市	あ環生収第317号	令和4年4月1日	令和6年3月31日	浄化槽汚泥、道路・公園及び河川の清掃により発生する廃棄物他										
18		奥多摩町	第3号	令和2年10月29日	令和4年10月28日	事業系一般廃棄物（紙くず・木くず）										
<一般廃棄物処分業>																
19		日の出町	2日生第9099号	令和2年12月1日	令和4年11月30日	破碎処理（木くず）										
<建築物飲料貯水槽清掃業登録証明書>					備 考											
20		東京都	9貯第1429号	平成30年4月10日	平成36年4月9日											
<建設業許可>					業の区分											
21		東京都	東京都知事許可（般-3）第115850号	令和3年8月15日	令和8年8月14日	土木工事業、とび・土工工事業、管工事業、造園工事業、水道施設工事業、解体工事業										
<浄化槽保守点検業者登録通知書>					備 考											
22		東京都	浄保（9）第230号	平成30年2月25日	平成35年2月24日											
23		八王子市	八浄保 第19-9号	平成30年2月25日	平成35年2月24日											
<浄化槽清掃業許可証>					備 考											
24		あきる野市	あ都管収第1250号	令和4年4月1日	令和6年3月31日											
25		日の出町	3日生第13438号	令和4年4月1日	令和5年3月31日											

※東京都の産業廃棄物収集運搬業は積替え保管を含む。
 種類は廃プラスチック、紙くず、木くず、繊維くず、金属、ガラス・コンクリート・陶磁器くず（各8㎡）

3. 環境経営方針

環 境 経 営 方 針

<環 境 経 営 理 念>

株式会社スリーピングサービスを中心とする企業グループは、産業廃棄物収集運搬・処分業及びその周辺事業を通じて、地域社会の「持続可能な生活環境の創造」に貢献する企業を目指します。地域環境に負荷をもたらす既存の経営手法にとらわれず、企業グループ全体で革新的な経営手法を考え実践してまいります。

<行 動 指 針>

1. 環境経営の継続的改善
エコアクション21を積極的に運用し、環境経営の継続的改善に努めます。
2. 法令遵守
当社業務に適用される環境関連法規等を遵守します。
3. 環境活動への取組み
当社の事業特性を踏まえ、以下の環境活動に重点的に取組みます。
 - (1) 環境負荷の削減
省エネルギー・省資源
 - (2) 環境取組の推進・向上
エコドライブの推進
リサイクルの推進
環境美化の推進
グリーン購入の推進
4. 実施態勢の確立と環境教育
エコアクション21の機能を効果的・効率的に推進していくために、社内の実施態勢を確立し全社員への環境教育に努めます。
5. 環境経営目標の設定
この環境経営方針を達成するために、環境経営目標を設定し、定期的に見直し環境改善に努めます。

制定日 2014年1月1日

改定日 2020年6月1日

株式会社スリーピングサービス

代表取締役 田邊 昌志

4. 環境経営目標

施策	項目	区分	単位	2019年度	2020年度	2021年度			中期目標 (2020年度作成)			
				実績	実績	目標	実績	評価	2020年度	2021年度	2022年度	
1. 環境負荷の削減	1.1省エネルギー・省資源	二酸化炭素排出量削減(*)		kg-CO2	244,877	113,888	125,922	136,103	-	127,194	125,922	314,600
					2021年度目標比		100.0	108.1%	×	89.5% ○	108.1% ×	-
		軽油燃料消費量削減	清掃・収集運搬	ℓ	64,643	12,957	13,634	12,940	-	13,772	13,634	-
				2021年度目標比		100.0	94.9%	○	94.1% ○	94.9% ○	-	
			汚泥収集運搬 (2022年度～)	ℓ/t	-	-	-	-	-	-	-	8.43
				2021年度目標比		100.0	#VALUE!	-	-	-	-	
		汚泥処理場重機 (2022年度～)	ℓ/t	-	-	-	-	-	-	-	-	1.82
			2021年度目標比		100.0	#VALUE!	-	-	-	-		
		電力使用量削減	汚泥処理場	KWh	105,970	105,399	120,135	142,364	-	121,348	120,135	158,196
				2021年度目標比		100.0	118.5%	×	86.9% ○	118.5% ×	-	
			日の出事業所	KWh	41,121	42,964	46,735	43,894	-	47,207	46,735	46,268
		2021年度目標比		100.0	93.9%	○	91.0% ○	93.9% ○	-			
	計		KWh	147,091	148,363	166,870	186,258	-	168,555	166,870	165,202	
	2021年度目標比		100.0	111.6%	○	88.0% ○	-	-	-			
	上水使用量削減	汚泥処理場	m³	1,128	1,251	1,340	1,282	-	1,354	1,340	1,327	
			2021年度目標比		100.0	95.7%	○	92.4% ○	95.7% ○	-		
		日の出事業所	m³	450	465	492	456	-	497	492	487	
			2021年度目標比		100.0	92.7%	○	93.6% ○	92.7% ○	-		
計		m³	1,578	1,716	1,832	1,738	-	1,851	1,832	1,814		
2021年度目標比		100.0	94.9%	○	92.7% ○	94.9% ○	-					
1.2 自社廃棄物排出量	一般廃棄物削減	全社	kg	702	637	660	723	-	667	660	723	
				2021年度目標比		100.0	109.5%	×	95.5% ○	109.5% ×	-	
2. 環境取組の推進・向上	2.1グリーン購入の推進	グリーン購入率の向上(金額)	全社	%	77.0	購入の定着(80.0%)	購入の定着(80.0%)	購入の定着(81.3%)	○	購入の定着	購入の定着(80.0%)	-
					○	81.3% ○	-	-				
	2.2受託した産業廃棄物の環境配慮	3Rの推進	汚泥処理場	-	処理設備の安定操業	処理設備を増設し削減することが出来た	無機系残渣物の減量	減量することが出来た	○	無機系残渣物を減量し、二次処理委託量を減らす		
	2.3環境美化の推進	生活環境影響評価(騒音・臭気)	汚泥処理場	-	毎月実施	毎月測定実施と規制値内の確認	測定実施と規制値内の確認	毎月測定実施と規制値内の確認	○	毎月実施		
		地域貢献活動	全社	-	年12回実施	4回実施(コロナウイルス感染防止対策の為)	地域清掃の実施	10回実施(コロナウイルス感染防止対策の為)	△	年12回実施		
	2.4清掃業務(道路、下水等)の向上	作業効率の向上	清掃・収集運搬	-	新型コロナ対応で3月以降、行えなかった	作業時間の短縮	作業の効率化	作業時間の短縮	○	作業の効率化を図り、作業時間短縮による環境負荷の低減		
2.5環境取組の報告	取組の推進	全社	-	取組状況の報告(毎月)	取組状況の報告(毎月)	自らの役割と責任の自覚	取組状況の報告(毎月)	○	取組状況の報告(毎月)			

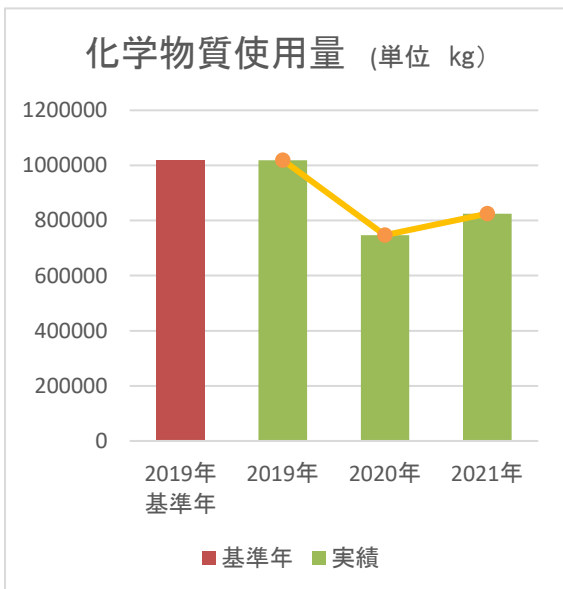
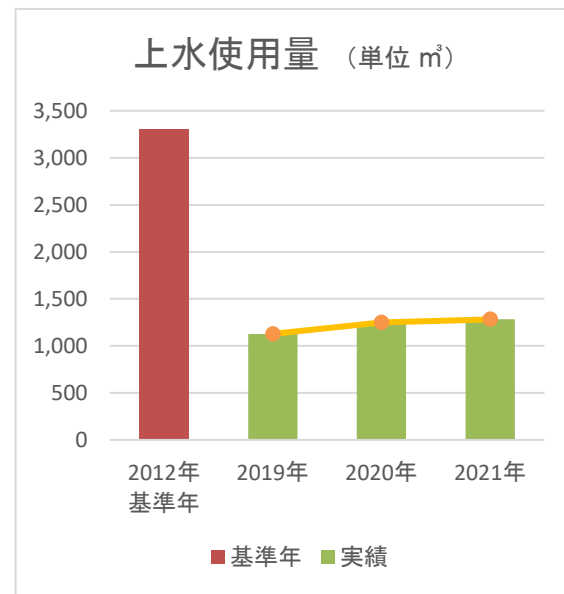
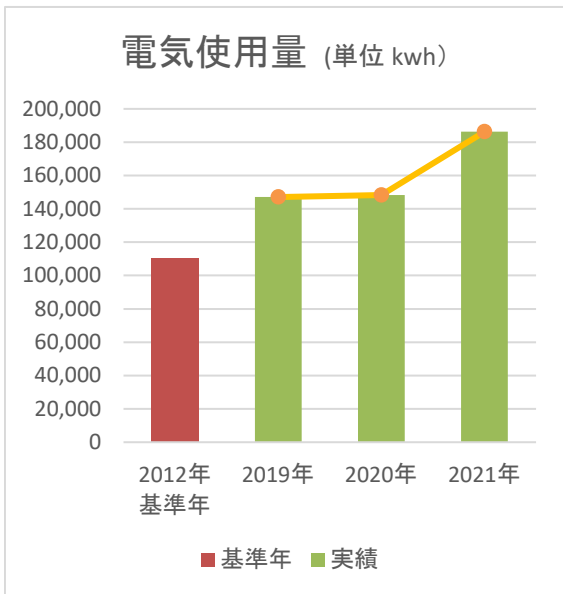
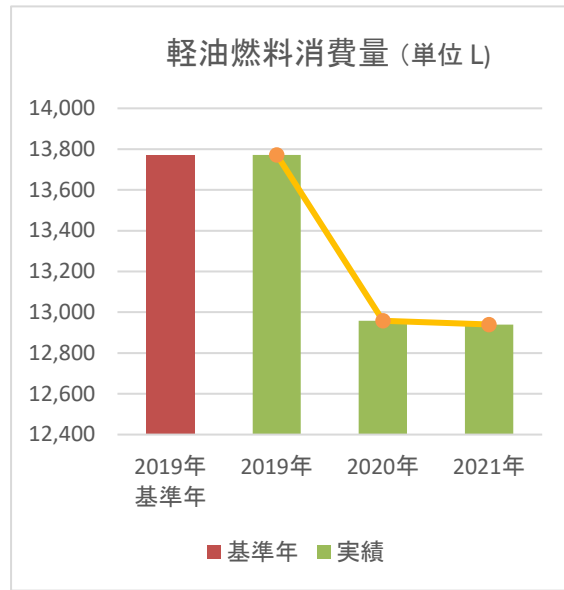
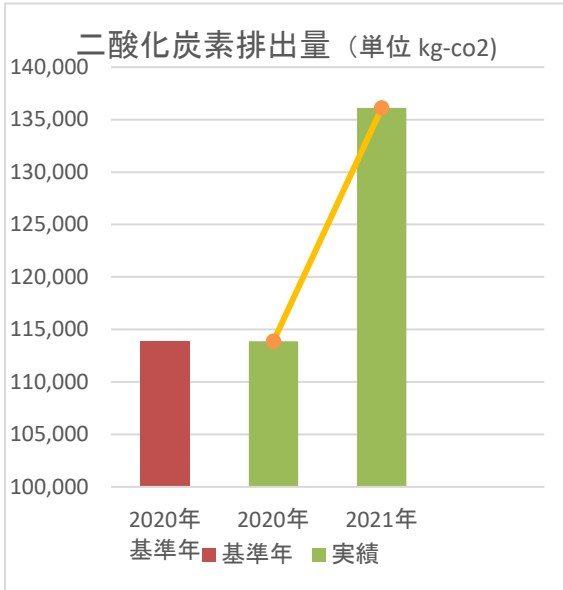
※この環境経営目標は環境負荷が大きな事業所を重点的に目標設定しています。

- ・灯油、都市ガス、液化石油ガス(LPG)、ガソリン、軽油(汚泥処理場)は環境負荷が少ない為、目標設定していません。
- ・軽油(清掃・収集運搬車)は路面清掃車4台に限定している為、その他の車両は目標設定していません。
- ・2022年度からの軽油は汚泥処理場と清掃・収集運搬車に区分して目標設定しています。
- ・立川支店(電気・水)は従業員が常駐していない為、目標設定していません。

※二酸化炭素の排出係数

汚泥処理場は2019年11月までは東京電力エナジーパートナー㈱の2017年度排出係数0.462kg-CO₂/kWhを使用し、2019年12月からシン・エナジー㈱の2018年度排出係数0.592kg-CO₂/kWhを使用している。2022年8月から日本テクノ㈱の2020年度排出係数0.485kg-CO₂/kWhを使用している。
日の出事業所は2020年1月までは東京電力エナジーパートナー㈱の2017年度排出係数0.462kg-CO₂/kWhを使用し、2020年2月から㈱ウエスト電力の2018年度排出係数0.407kg-CO₂/kWhを使用している。2022年8月から東京電力エナジーパートナー㈱の2020年度排出係数0.441kg-CO₂/kWhを使用している。

環境負荷の実績



※負荷項目ごとの対象サイト

- ・二酸化炭素排出量
軽油燃料消費量(路面清掃車4台)
汚泥処理場、日の出事業所の電気使用量
- ・軽油燃料消費量
路面清掃車4台
- ・電気使用量
汚泥処理場、日の出事業所
- ・上水使用量
汚泥処理場
- ・化学物質使用量
固化材(酸化カルシウム)

5. 環境経営計画

<環境経営活動方針>

- 社員ひとり一人が参画意識を持ち、活動計画を実行し、環境活動に積極的に取り組むこと。
中間報告や活動報告を増やし個々の意識を向上させ、環境への取り組みの更なる活性化を期待する。
- 活動にあたっては「PDCAサイクル」を回すこと。

【P:計画の策定】				【D:計画の実施】	
活動項目	目的	目標値	担当部門	実施方法 (詳細は個別活動計画参照)	
1. 環境負荷の削減	1.1省エネルギー・省資源	軽油燃料消費量削減	13,634 L	清掃・収集運搬G	1) エコドライブ推進、省燃費運転講習参加 2) 暖気運転の短縮・中止 3) 「燃費」の管理
		電力使用量削減	46,735KW h	日の出事業所G	1) 事務室・食堂の空調温度の管理（出来る限り、空調設備の使用を控える） 2) 窓を開けて換気、温度調整をする 3) 室内の照明一昼休み消灯、倉庫は使用時のみ
			120,135KW h	汚泥処理場G	1) 電気の見える化による消費電力の管理 2) 管理事務室の空調温度の管理 3) 管理事務室消灯チェック確認表への記入
		上水使用量削減	492m ³	日の出事業所G	1) 節水の呼びかけ表示 2) 節水の周知徹底、節水を心掛ける。 3) 節水コマ、節水パッドの点検
			1,340m ³	汚泥処理場G	1) 日の出事業所G（1～3）に同じ 2) 再生水汲み上げポンプの定期点検 3) 洗車時間を守る
	化学物質使用量の削減 (固化材/酸化カルシウム)	1,008,810kg	汚泥処理場G	1) 汚泥受入槽の汚泥を上水と分離させる 2) 出来るだけ乾いた汚泥を使用する 3) 造粒固化機での固化材供給量の調整	
	1.2 自社廃棄物排出量	一般廃棄物削減	660kg	全社	1) 分別の徹底 2) ミスプリントの防止 3) 再生紙コピー紙の裏紙利用推進
産業廃棄物削減		リサイクル促進	全社	1) 発生時リサイクルの徹底	
2. 環境取組の推進・向上	2.1グリーン購入の推進	グリーン購入比率の向上 (金額ベース)	購入の定着 (80.0%)	全社	1) 本来に必要なか、必要な時は環境のことを考えて購入する。 2) 新規購入時のエコ商品検索
	2.2受託した産業廃棄物の環境配慮	3Rの推進 (持出量の削減)	無機系残渣物を減量し、二次処理委託量を減らす	汚泥処理場G	1) 分別の徹底 2) 増設した設備の安定稼働
	2.3環境美化の推進	生活環境影響評価 (規制値内の確認)	騒音、臭気測定の実施	汚泥処理場G	1) 騒音測定（月1回）、臭気測定（月2回）の実施及び規制値内の確認
		地域貢献活動	地域清掃の実施	全社	1) 地域清掃の実施（毎月）
	2.4清掃業務（道路、下水等）の向上	作業効率の向上	環境負荷の低減	清掃・収集運搬G	1) 作業前ミーティング、KY活動の実施 2) 現場での従業員教育を行う 3) 作業の効率化を図り、作業時間を短縮する
	2.5環境取組の報告	自らの役割及び責任の自覚	取組の進捗状況を報告	全社	1) 毎月、進捗状況の報告を行う 2) 3か月毎に目標達成状況を評価し報告する

【PDCAサイクル】

P:計画の策定 (Plan)

活動方針を踏まえ、活動項目、目的、担当部門、実施方法、その時期を決めること（責任者）
活動計画を全社員に周知する（環境管理責任者）

D:計画の実施 (Do)

実施方法＝個別活動計画・進捗管理表の「具体的施策」を実行すること（社員全員）

C:取組状況の確認及び評価 (Check)

毎月初に前月の進捗状況と目標達成状況を評価し、月次営業会議で報告する（責任者）
3ヶ月毎に進捗状況と目標達成状況を評価し、月次営業会議で報告する（環境管理責任者）

A:全体の評価と見直し (Action)

前月及び今後の取組み状況が未達の場合、「具体的施策」を見直す（責任者、環境管理責任者）

6. 環境経営計画の取組結果とその評価と2022年度の取り組み

(1) 軽油燃料消費量の削減

- ・ 軽油燃料消費量は目標を達成出来ました。(94.9%)
目標設定は、業務の変動に影響を受けにくい路面清掃に関わる車両に特定しました。
達成出来た要因は、エコドライブが浸透し、身体に染み付き自然と取組めたことです。
- ・ エコドライブ講習はコロナウイルスの影響により中止となっており、受講出来ませんでした。
再開次第、全員の受講を目指します。(受講率58.1%)
- ・ 2022年度は汚泥の収集運搬に関わる車両と汚泥処理場内の重機等に区分して原単位での消費量削減に取り組めます。

(2) 電力使用量の削減

- ・ 日の出事業所は目標を達成出来ました。(93.9%)
今年は梅雨明けが早く猛暑日が続いたので7月の空調の稼働時間が増えましたが、1年を通してはコロナウイルス感染防止対策として窓を開けての換気、事務所内の温度調整も同時に出来たので、空調の使用を減らす事が出来ました。
- ・ 汚泥処理場は目標値を上回りました。(118.5%)
大きな要因としては、有機汚泥処理施設に設備を増設したことで使用量が増えました。
増設した設備は安定的に稼働し、使用量の把握が出来たので削減方法を検討している所です。
- ・ 2022年度もコロナウイルス感染防止対策を継続しながら、経営計画を実行し目標の達成に努めます。

(3) 二酸化炭素排出量の削減

- ・ 汚泥処理場の電力使用量が目標値を上回ったことが大きく、二酸化炭素排出量は目標を達成する事が出来ませんでした。(108.1%)
- ・ 二酸化炭素総排出量は341,788.1kg-CO₂。前年度315,865.4kg-CO₂に対して8.2%増えました。

(4) 上水使用量の削減

- ・ 汚泥処理場(95.7%)、日の出事業所(92.7%)ともに目標を達成する事が出来ました。
- ・ 汚泥処理場では業務改善による取組みの結果、削減に繋がりました。
- ・ 2022年度も節水の取り組みを継続し、使用量削減に努めます。

(5) 化学物質使用量の削減

- ・ 固化材の使用量削減として取組んだ結果、目標を達成する事が出来ました。(81.8%)
汚泥処理量の変動が使用量に影響する部分もありますが、削減する意識を持って取組めた事が大きいです。
- ・ 2022年度も同様に使用量削減に取り組めます。

(6) 一般廃棄物の削減

- ・ 当活動項目は目標値を上回りました。(109.5%)
- ・ 可燃ゴミ、シュレッダーゴミともに増えており、従業員の増員や仕事量増加に伴う廃棄書類が増えたことが主な要因です。裏紙は積極的に使用出来ていました。
- ・ 2022年度も同様に削減に取り組めます。

(7) 産業廃棄物の削減

- ・ 自社産業廃棄物は発生していません。
- ・ 今後発生の際は、リサイクルの促進に取り組みます。

(8) グリーン購入の定着

- ・ グリーン購入を定着させることを目的に取り組んでおり、目標値である80%を超えることが出来ました。(81.3%)
- ・ 2022年度も同様に取り組みます。

(9) 3Rの推進

- ・ 処理施設は順調に稼働し、90%のリサイクル率で持出量の削減に繋がっています。
- ・ 2022年度も3Rを推進し、リサイクル率の向上に取り組んでいきます。

(10) 環境アセスの実施

- ・ 自社による騒音測定(月1回)・臭気測定(月2回)を汚泥処理施設で行い、基準値を超える値は測定されませんでした。
- ・ 東京都環境確保条例の規制基準を遵守していることの確認を目的とします。

(11) 地域貢献活動

- ・ 対象エリアを3区域に分けて毎月清掃を行う予定でしたが、コロナウイルスの影響により10回の実施となりました。
- ・ 2022年度は毎月実施を目標に取り組んでいきます。

(12) 取組の報告

- ・ 月に一度の進捗状況、3カ月毎の目標達成状況の報告を行い積極的に環境活動に取り組むよう促しました。
- ・ 2022年度も同様に取り組みます。

(13) カーボンオフセットへの取り組み

- ・ 2011年度以降、事業活動に伴うCO₂排出量の一部をカーボンオフセットしています。
- ・ バウンダリ(対象範囲)は、廃棄物処理工場の稼働、清掃維持管理、事務所、営業車両で使用したエネルギーから発生するCO₂排出量とし、国内クレジットを行っています。
- ・ 2021年度のCO₂排出量は320,830kg-CO₂。CO₂償却量は321,000kg-CO₂でした。
- ・ 2022年度も同様に取り組みます。

7. 環境関連法規等の違反、訴訟等の有無

- ・「環境法令等遵守チェックリスト」にもとづきチェックを行った結果、環境関連法規への違反はありません。なお、関係当局より違反等の指摘は、過去3年間ありません。

8. 代表者による全体評価と見直しの結果

- ・2021年度は汚泥処理場の電力使用量、一般廃棄物排出量において目標値を上回りました。要因としては設備の増設や稼働時間の増加、従業員が増えたことによる影響が大きいと思われます。
- ・他の活動項目は目標を達成する事が出来ました。
軽油燃料消費量の削減では業務量増減の影響を受けにくい路面清掃に関わる車両に限定して取組んでおり、昨年に続き成果が見て取れます。
- ・総合的に評価すると、各部門の責任者を中心にPDCAサイクルがしっかりと回され、取組の向上に繋がっています。
- ・今後も出来る限りの地球温暖化対策に取組み、環境負荷の低減に貢献したいと考えております。

9. 施設の状況

(1) 収集運搬車両の状況

車両の種類	積載量	台数	環境保全対策等	排ガス規制適合車	E C Oドライブ
吸引車	3t	2	密閉式タンク車	○	○
	4t	2			
	5t	1			
	8t	1			
	10t	4			
ダンプ車	2t	2	シート掛け等	○	○
	7t	1			
	10t	1			
トラック	2t	1			
アームロール車	4t	2	—		

(2) 積替え保管施設の面積と保管上限量

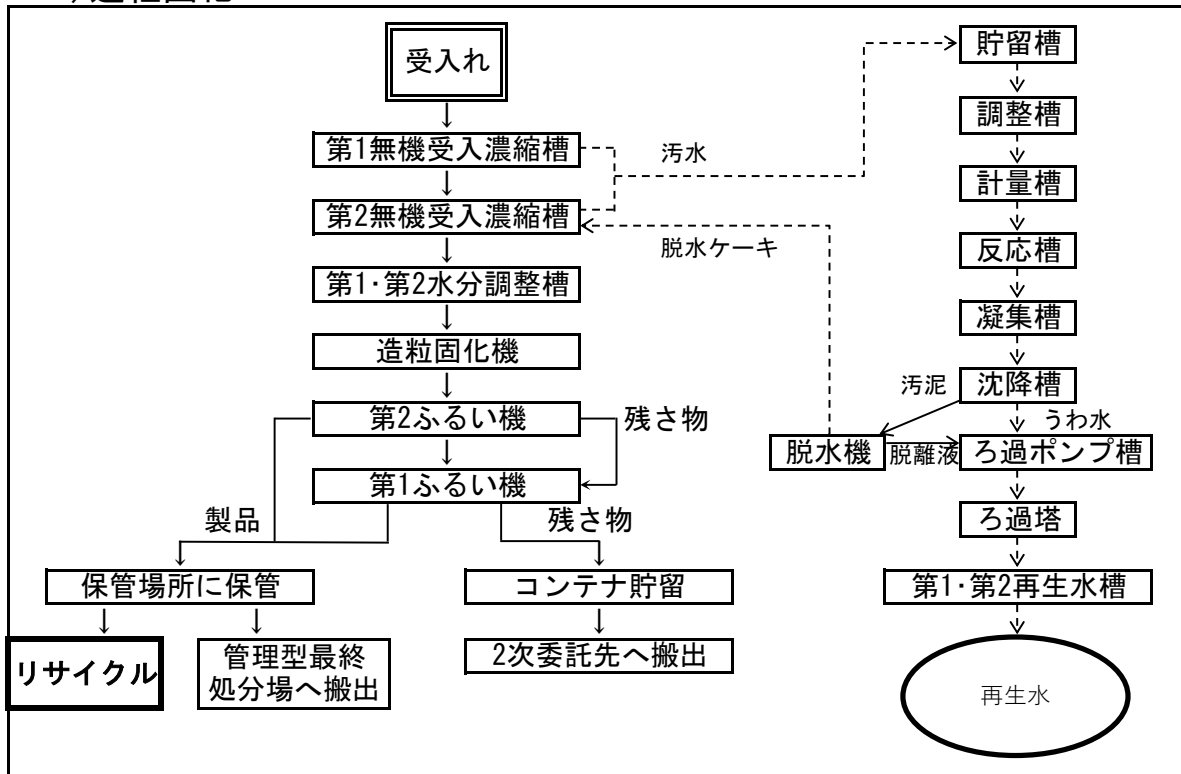
積替え保管施設の面積	保管上限量		
	3,842.21㎡	廃プラスチック類	8m ³ コンテナ1個
紙くず		同上	8m ³
木くず		同上	8m ³
繊維くず		同上	8m ³
金属くず		同上	8m ³
ガラス・コンクリート・陶磁器くず		同上	8m ³

(3) 処理施設の種類の種類等

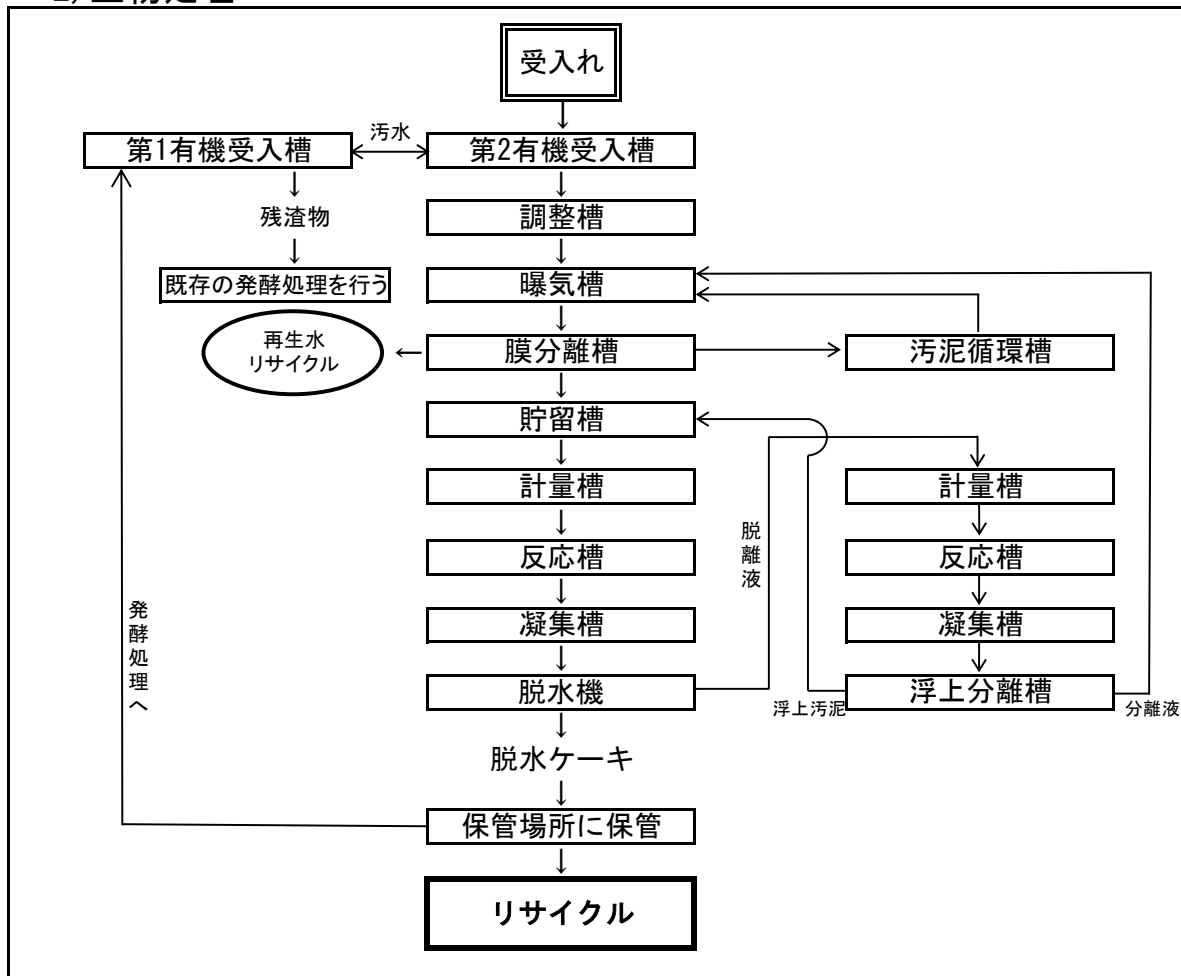
施設種類	産業廃棄物の種類	処理能力
造粒固化	汚泥（管渠清掃, 道路・公園等の清掃に係るものに限る）	240.0m ³ /日
生物処理	汚泥（有機性のものに限る）	30.0m ³ /日
回転乾燥	汚泥（自社処理後のものに限る）	7.2m ³ /日
発酵	汚泥（有機性のものに限る）	5.04m ³ /日

(4) 処理工程図

1) 造粒固化

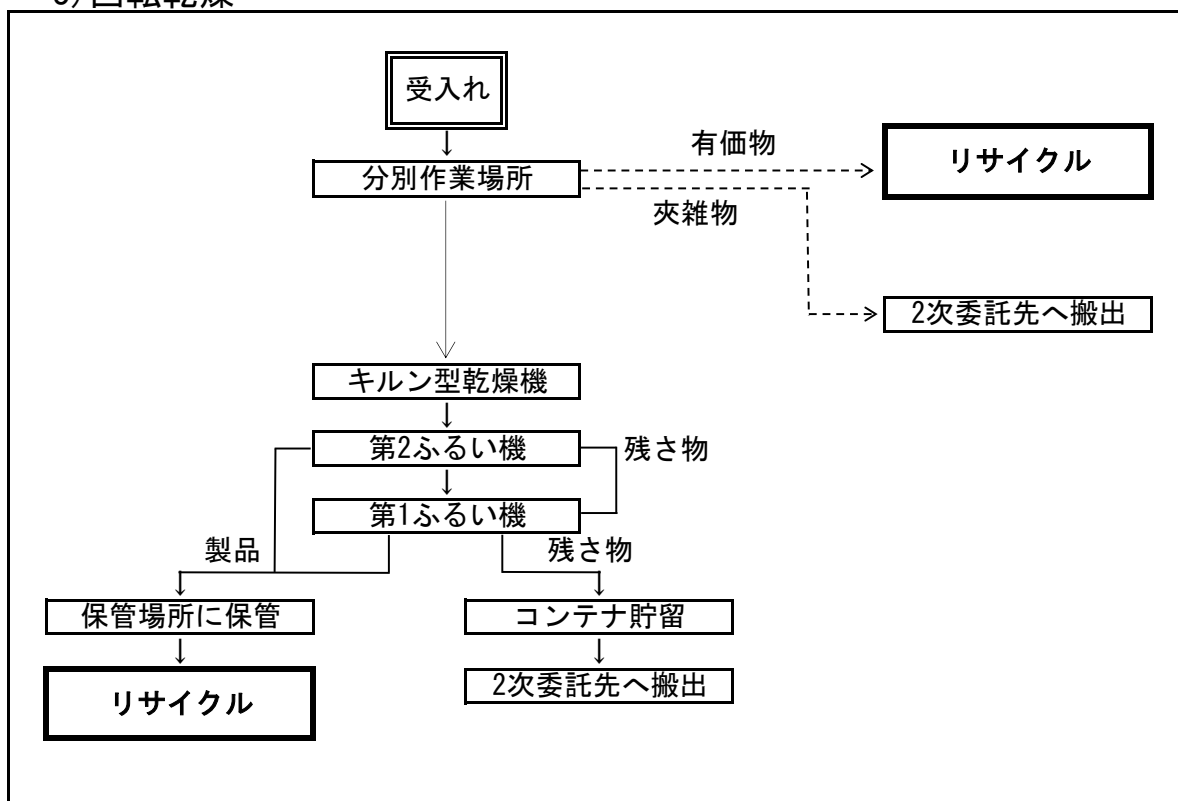


2) 生物処理

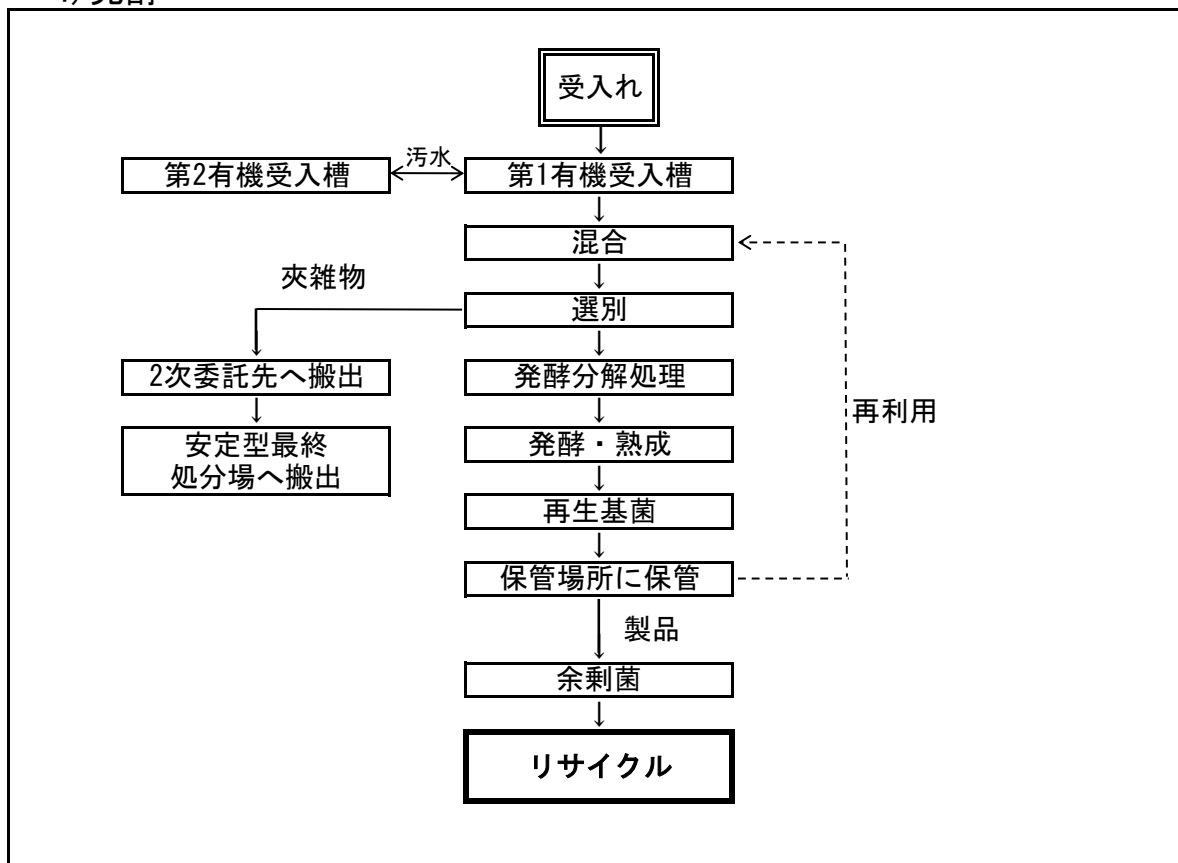


(4) 処理工程図

3) 回転乾燥



4) 発酵



(5) 処理実績/受託した産業廃棄物の処理量

処理方法等	廃棄物等種類	処分方法等	処理量 (t)			
			2019年度 R1年8月～R2年7月	2020年度 R2年8月～R3年7月	2021年度 R3年8月～R4年7月	
産業一般廃棄物	(i) 収集運搬	浄化槽汚泥	1,333	1,365	1,331	
産業廃棄物	(i) 収集運搬	廃プラスチック類	4	4	5	
		紙くず	9	11	9	
		木くず	0	0	0	
		繊維くず	0	0	0	
		金属くず	0	0	0	
		ガラス他	10	15	57	
		廃油	172	171	189	
		汚泥	8,857	6,305	6,300	
	合計		9,052	6,506	6,560	
	(ii) 中間処理	汚泥	10,670	8,762	8,784	
	内、再資源化等	汚泥	10,721	8,693	8,989	
	合計		10,670	8,762	8,784	
	(iii) 最終処分	-				
	合計					
	(iv) 中間処理後の産業廃棄物	最終処分	汚泥	安定型最終処分 (委託)	34	287
汚泥			管理型最終処分 (委託)	7	36	18
小計			41	323	18	
再資源化等		汚泥 (建設盛土用)	リサイクル 製品化	5,631	4,054	4,182
		汚泥 (土壌改良用)		1,170	1,470	2,166
		汚泥 (肥料用)	再資源化 (委託)	110	56	18
		汚泥(コンクリート 固化用)		80	671	0
		廃プラスチック類		44	34	33
		木くず		370	43	0
ガラス・がれき類		818	520	696		
小計		8,223	6,848	7,095		
合計		8,264	7,171	7,113		

10. 環境活動への取り組み

電気の「見える化」による省エネの取組



節水の呼びかけ表示、周知徹底



エコドライブの推進



処理場での騒音測定の実施



近隣の清掃活動



道路の側溝清掃作業の様子



[ホームページ]

詳細な事業活動に関する内容は、下記のホームページに記載しています。

URL : <http://www.sweeping.co.jp>

[連絡窓口]

当社の環境活動や本レポートへのご意見、ご質問等がございましたら、下記のエコアクション21事務局までご連絡ください。

エコアクション21事務局
メールアドレス : eco21@sweeping.co.jp
電話 : 042-597-6111 FAX. 042-597-6115